

2024年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

【業績（実績・予想）】

Q: 今期の営業利益について、3Qで下方修正したものの、その予想からさらに下振れした要因を教えてください。

A: 下振れした1,144億円の内訳は、操業度が約600億円、賃上げの価格転嫁未合意分が200億円、電子部品の高騰が170億円、開発投入が約100億円、残りは燃料ポンプとは異なる品質費用となります。操業度は、お客様の稼働停止による生産台数の減少、賃上げの価格転嫁は、国内自動車メーカー様には前向きに取り組んでいただいている一方で、海外特に北米で賃上げ分の回収が進んでいない状況です。

Q: 25/3期の車両生産台数の見通しについて、24/3期と比べどの程度で前提を置いているのか、またリスクはどの程度織り込まれているのか教えてください。

A: 車両生産台数の見通しは、24/3期と比べ微増と見えています。またリスクとして、アジア、特にタイとインドネシアでの自動車ローン与信の厳格化による若干の下押しと、中国での外資系・日系自動車メーカー様の苦戦がありますが、固定費のコントロールにより期中で対応していきたいと考えています。

Q: 電動化製品や先進運転支援システム製品が好調だと思いますが、電気自動車の成長鈍化、あるいはハイブリッド自動車为好調な傾向をどのように見ているのか教えてください。

A: ハイブリッド自動車・燃料電池車・電気自動車の構成比率について、様々な自動車メーカー様との会話の中で短期・中長期の見通しを提供しており、電気自動車の鈍化は、想定範囲内で動いていると感じています。但し今後どのように構成が振れても柔軟に対応できるよう、例えばモジュールごとによく流用できるような仕組み、あるいは生産ラインで柔軟に受け入れるよう工程の標準化を進めることで、決算の数値に影響しない構えをつくっていきます。

【事業ポートフォリオ】

Q: 事業ポートフォリオの変革について、今後の考え方や直近発表したスパークプラグなどの事業譲渡検討の動きについて教えてください。

A: 短期的には電気自動車が鈍化していますが、中長期的には内燃機から電動化へのシフトは進行していくと考えており、事業ポートフォリオ転換は今までの考えをぶらすことなく推進していきます。これは業界全体でどのように市場に対し価値提供を維持継続していくのかであり、当社1社ではなく、自動車メーカー様や仕入先様、さらには同業他社様と共に、お客様のニーズに合ったパワートレミックスをどのように提供するのかという視点で考えていかなくてはなりません。こうした考えの中で、スパークプラグなども関係会社様と協議を続けています。

【政策保有株式の縮減】

Q: 政策保有株式の縮減について、豊田自動織機株は最終的に全株売却となる一方で、ジェイテクト株やトヨタ紡織株は一部売却となっていますが、この違いや基準について教えてください。

A: 一部の株を持ち続けることは基本的に考えておらず、発行体の株価への影響や株式の売却先など方針の違いです。

以上